



相川

盛大におこなわれた「いかいか祭り」今年で9回目

7月16日(日) 姫津漁港内で、漁協主催による「いかいか祭り」が行われました。

今年で9回目だそうです。

場内には漁業の集落だけあって海の幸が一杯、生きたいかをその場で刺身にしたり、いか焼き、いかの沖汁、生いかの直売等、他にも海の幸はある中でこの日はかりは、いかがかの主演。また、いか釣り体験等も行われました。

地元郷土芸能の薬師太鼓や四魂の会のおどり等も披露され、集落のパワーに圧倒されました。この日おとずれた人は3000人余りでした。



佐和田

環境にやさしいEMボカシ作り

7月17日(月) 佐和田体育館で、新潟県消費者協会佐和田支部主催のEMボカシ作りが開催されました。

EMとは、安全で有用な微生物を80余種共生させた、液状の微生物資材のことを言います。参加者は、オガクズと米ぬかをビニールシートの上でムラなく混ぜ合わせていき、それが終わると、上からジョウロでEMをかけ、再度、混ぜ合わせ、袋に詰めていきます。それを何度も繰り返して、たくさんのEMボカシが出来上がっていききました。

当日は25名の方が参加され、皆さん一生懸命混ぜ合わせていました。EMボカシは生ゴミとまぜて発酵させることによって土に入れるときれいに分解され堆肥に変わります。

いつもなら、ただ捨てられてしまう生ゴミを堆肥として再利用することができ、さらに、ゴミ焼却によるダイオキシンの発生も抑えられ、一石二鳥です。

みなさんも、EMボカシを利用して家庭菜園などを作ってみてはいかがでしょうか？



金井

金井中学校校内球技大会が行われました

7月20日(木) 金井中学校体育館において、全校生徒参加の校内球技大会が行われました。

前半は、各クラス対抗で長縄跳びが行われ、2分間でどれだけ多く飛べるかを2回行い、合計回数を競いました。

また、後半は、各クラスを3分割し赤・青・黄3つのグループに分け、混合チームによるバレーボール大会で熱戦が繰り広げられました。

二つの競技はともに、全校生徒が出演し「みんなで金井中を作り上げよう」という趣旨のもと行われ、今年度初の試みは成功を収めました。

主体となった学年委員は、「グループ分けが苦労したけど、全校生徒が盛り上がる事ができた」と充実した表情で話していました。



真野

～西三川・果樹農園～

採りたての美味しさを直接消費者へ提供する「西三川くだもの直売センター」が今年も7月20日(木)オープンしました。今年の果物の生育は寒さの影響で1週間ほど遅れているとのことですが、当日は今が旬のスイカや野菜などが並べられ、訪れた人が買い求めていました。果樹農家では冬の剪定に始まり、春の授粉、夏の摘果、秋から年末にかけ収穫・発送と休みなく作業が続きます。

果樹農園を訪れると早生のりんご「津軽」は紅色に色づき始め、梨「愛甘水」も程々の大きさになり、8月からの出番を待っているようでした。

9月10日(日)には、いぶき21を会場に『くだものまつり』も予定され、多くの人の賑わいが今から楽しみです。ピークとなる9～10月には品数も増え、12月下旬の終了まで楽しめるそうです。



赤泊

いご草採り解禁

7月20日(木)午前6時、赤泊地区でいご草採りが解禁になりました。

梅雨明け間近を思わせる晴天に恵まれたこの日、佐渡特産のいごねりの原料であるいご草を採ろうと、多くの船が磯の岩場へ漕ぎ出しました。このいご草は、箱メガネで海底を覗きながら、先にカギのついた竹竿でひっかけて採ります。船に積まれたいご草を船揚場まで運び、受け取った家族は、庭先や船小屋などでいご草についたゴミや藻などを取り除き、簾に広げて天日乾燥させていました。あたりには磯の香りがいっぱいに広がり、梅雨明けをを心待ちにしているようでした。



両津

伝統芸能を保存していきたい (野浦芸能の里フェスティバル)

7月23日(日)、野浦地区の野浦伝統芸能伝承館において、第7回「野浦芸能の里フェスティバル」が盛大に開催されました。

この催しは地域をあげて伝統芸能の保存に取り組む野浦地区が開催したもので、春駒や文弥人形、佐渡民謡などの様々な郷土伝統芸能が披露されました。

また、今年は特別出演として、兵庫県淡路島の三原中学校の学生による人形浄瑠璃『傾城阿波鳴門』巡礼歌の段が披露されたほか、文弥人形体験などもあり芸能保存に対する強い意気込みを感じることができました。

そのほかにも有機米コシヒカリや焼きあご、サザエのつぼ焼きなど地元の郷土料理もあり、会場を訪れた多くの方は、「観てよし」、「食べてよし」の大満足の日となりました。





羽茂 カルトピアセンター素浜 サマーコース開催



◀ジェットスキーを体験

海浜留学施設「カルトピアセンター素浜」で短期自然学園サマーコースが開かれました。カルトピアセンター素浜では、豊かな自然体験を通じた人格形成を目的とした自然学園を開校しています。サマーコースは、5泊6日で行われる短期留学プログラムです。年間を通じた指導を行っている長期自然学園のアピールを兼ねて、毎年行われています。プログラムの中では子どもたちに人気のあるジェットスキーなども体験できます。今年は7月26日(水)から行われ、佐渡内外から38人の参加者と、地元の中高生や関東の大学生など、数多くのボランティアスタッフがカルトピアセンター素浜で一緒に生活をしました。

「人に迷惑を掛けない」「自分のことは自分でやる」「決められたルールを守る」「友達をいっぱいつろう」この4つが自然学園のルールです。

サマーコースに参加した子どもたちは、この4つのルールを守り、佐渡の自然の中で、はじめて会う仲間たちと一緒に過ごした体験をとおり、集団生活の厳しさや仲間を思いやる気持ちを身につけていったようです。

新穂 満喫! 新穂トキっ子の夏



◀きれいになったかなあ?

新穂トキっ子保育園では、梅雨の晴れ間となった7月20日(木)に、待ちに待ったプール開きを行いました。

水着に着替えた子供たちは、これからお世話になるプールにご挨拶、とばかりにスポンジを手にして、一生懸命に1年間の汚れを落としていきました。さっそくきれいになったプールでは歓声をあげて遊ぶ園児たちの姿が見られました。大人気のプール遊びは天気の良い8月下旬まで続きます。

また、28日(金)には、恒例の夕涼み会が開かれました。この日はあいにく雨模様となり、急きょ会場を変更して保育園内での開催となりましたが、かわいい浴衣姿の園児たちは、盆踊りに興じたり、各部屋に用意された夜店をおうちの人とまわっておみやげをもらったりと、夏のひとときを楽しみました。



随想

ゆち夢飛行

佐渡市長 高野宏一郎

No. 3

霧の中で
〜読売新聞ジェット機墜落事故から20年〜

霧の中で操縦しているパイロットは、時に自分の位置の感覚を失って上下左右の方向を誤って大きな事故につながる可能性があります。20年前の事故もこのような原因だったのでしょか。濃霧の中で訓練を終わった読売機が妙見山の山頂の近くに激突して、4人のクルーが帰らぬ人となったのを覚えておられる方も多いと思います。昭和61年7月23日正午ごろ、レーダーから機影が消えて事故は起きました。一夜明けてからの大規模な捜索の結果、午前6時過ぎ、妙見山付近の山林に機体が墜落しているのが発見され、4人の遺体を確認されました。今年はその事故からちょうど20年目で、私も関係者と現地での慰霊祭に参加しました。

事故の後の金井町役場の対処は適切でした。当時の田中二郎町長や総務課長だった渡辺和彦氏(元金井議長)や職員による、寝食を忘れた支援に感激した読売新聞社は関係者への感謝の気持ちから、その後今日まで毎年数多くの書籍を町に寄贈され、新市となっても続けられてきた寄贈書籍の累計は、3万2千冊にも及び、佐渡市の図書館の全蔵書の1割近くにも達しています。佐渡市は一昨年の合併の後、今まで旧各市町村の図書館が電子的に統合され、合計した蔵書総数は全島で約35万冊となり、県内でも長岡市図書館に次ぐ多さに驚いていたところでしたので、いまさらながら読売新聞の寄贈図書館の佐渡市図書館に占める大きさを実感しているところです。

当日は妙見山の尾根筋にある慰霊碑にあの日を思い起こすような濃い霧が立ち込める中で、関係者二行は次々に献花を行い、頭を垂れて不慮の事故で亡くなられた4人の霊にしめやかに祈りをささげました。慰霊祭のほんの数10分の間に、皆の衣類は山霧にすつかり濡れてしまい、あの日の若き犠牲者の無念の涙のように冷たい雫を滴らせながら無言のまま下山したのでした。



小木港重要港湾指定30周年記念

7月20日(木)から22日(土)までの3日間、小木港が重要港湾に指定され30周年を経過したことを喜び、記念事業が開催されました。

1601年に佐渡金山が発見されると、小木港(現漁港)は江戸への「佐渡金山の金銀」積出港として活躍し、また河村瑞賢により「西廻り航路」が開かれると、寄港地として飛躍的に栄えることとなりました。その後、佐渡の港の顔という役割を担い、昭和49年4月に重要港湾の指定を受け、今日に至っています。



船内一般を揚げる



また、歓迎式典・歓迎祭は、これからの小木港に寄せる思いと激励の言葉が交差する中、肅々と開催されました。雨模様を吹き飛ばすように、若林美津枝さんと鼓童メンバーによる、舞踊と演奏が、また地元元気の波会から、佐渡おけさ・小木おけさなどが披露され、参加者から感嘆の拍手が送られていました。

充実した3日間の思い出と、再び寄港する約束を交わし、帆船「あこがれ」は22日夕方に小木港を後にしました。

公開がされ、見学者から貴重な体験ができたこと、大変喜ばれていました。

21日の記念シンポジウムでは、「みなとまち・小木」昔の佐渡、未来の佐渡」と題し、小木港の歴史と重要性を振り返り、対岸都市との繁栄について積極的な意見が交わされました。パネラーとして出席した小木中学生から、歴史的に深く関わってきた「宿根木」地区で、観光案内ボランティアを行うて感じたこととして、地域の人達との関わりを通じ、活きた文化や歴史を体感でき、体験を基に観光客に説明できることが感動です。自分たちに行きたくて、これからも地域で役立てて行きたい」と発表がありました。



両津郷土博物館では、佐渡の懐かしい写真を集めた写真展を開催しています。明治から昭和にかけての人々の暮らしや産業にスポットをあて、写真とともに、当時の道具も合わせて展示しています。時代とともに変化している、島のくらし」。現在の様子と比較しながらご覧ください。

「明治から昭和にかけての懐かしい写真をご覧ください」
「島のくらし」今むかし」写真展を開催中です
(9月18日(月)まで)

両津郷土博物館 専23 2100

(入館料/大人300円・小中学生100円 常設展示を含む)

「夏休み子ども博物館」も開催中!

(8月31日(木)まで)

佐渡の歴史や自然などに関する質問を受け付けています。アドバイスや資料を提供します!

「夏休み海藻学校」

8月20日(日) 午前10時

海藻標本の作り方を学び、海藻標本のオリジナル下じきを作ろう!

(参加費200円です)

事前にお申し込みください。



新潟県立近代美術館 巡回ミニシアム

佐渡会場 (入場無料)

会期 9月16日(土)

開館時間 午前9時~午後5時

会場 新穂体育館

お問い合わせ 教育委員会

生涯学習課(専27 4181)